

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200156		
法人名	株式会社ハートフルケア		
事業所名	グループホームひなた庵		
所在地	栃木県足利市小俣町291-3		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年1月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成21年4月に開所し7年が経ちました。大きい通りから少し入ったところで、とても静かな住宅街の中にあります。町内の地域福祉サロンにも参加していますので、近所を散歩しているとあいさつをする顔馴染みの方も増えてきました。ひなた庵ではグループホームの特徴を生かした介護をめざし入居者様に役割を持って生活して頂いております。また過ごしやすい季節には積極的に外出行事を行い楽しい生活を提供したいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は群馬県境に隣接した静かな住宅街に在り、利用者が落ち着いて過ごせる環境となっている。同敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、介護面や夜間時の連携が得られている。日常の支援においては地域密着型サービスの意義をふまえた理念のもとに、利用者が生きがいを持って家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活できるよう努めている。事業所主催の行事に地域の人達の参加や福祉ボランティアの協力がある他、散歩の際に声をかけられたり野菜等の差し入れがあるなど、地域との交流も良好である。日常的な周辺への散歩の他に、季節に応じ花の名所や道の駅などへの外出も積極的に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の掲示板に事業所理念を掲げ、職員や来客者の目につくように実践できる様になっています。	「利用者の人格を尊重し生きがいのある自立した生活が送れるよう、高度な介護技術を活かした支援を行う」という理念を玄関の掲示板に掲示し、管理者と職員はこれを共有し支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り地域の行事などに参加するように心掛けている。また散歩などの機会を多く持ち交流を広げている。	自治会の諸行事や地域のお祭り等には積極的に参加している。施設の行事に地域の福祉ボランティアの協力があり、音楽や踊り等のボランティアや保育園児の訪問も受け入れている。近隣での散歩の際に地域の人達と挨拶を交わすなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の際には地域の方に声をかけ来てもらい、日常生活の様子を見てもらい認知症について理解してもらえるような機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて活動報告をし様々な意見を聞き入れてサービス向上に努めている。	利用者・家族・市担当者・地域包括支援センター職員・民生委員・前民生委員の参加により2カ月に1回開催している。利用者の状況や行事の報告及び意見交換を行い、出された意見等はその後サービス向上に活かすよう努めている。	自治会長をメンバーに加え、さらに地域の学識経験者や保健医療関係者等の参加を試み、多方面から幅広い意見等が得られるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者へ更新申請や相談に行っている。	市の担当者とは日頃から連絡を取り合い指導や情報提供を受け、良好な協力関係を築いている。運営推進会議に市担当者が毎回出席し、事業所の取り組み等について理解を得ている。市主催の研修に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合い日頃から職員同士で注意し合い意識を高めるように取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては勉強会等で理解を深め、日常の支援においても職員同士で注意し合い意識を高めるよう努めている。利用者に対する言葉使いや支援態度にも配慮し身体拘束をしないケアに努めている。日中は玄関の施錠はせず職員の見守りや散歩等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の利用者に対しての虐待が無いように常に目を配り、職員がお互いに注意し合いカバーするようにしている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では利用している入所者はいないが権利擁護について話し合っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の際、本人や家族に同席して頂き十分な説明をし理解納得して入所して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時に、日常の様子の変化について報告している。要望も随時受け付けている。	利用者からは日頃のコミュニケーションや表情等から要望等の把握に努めている。家族には事業所への訪問時に利用者の状況を伝え、意見や要望を把握するようにしている。出された意見等は其後の運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の申し送りや定期的に情報交換会などカンファレンスの時間で運営に関する意見を聞く機会を設けている。	月に1回の情報交換会(職員会議)において職員からの提案等を聞いている。管理者は日常の支援の中でも話しやすい雰囲気作りに努め職員の意見等を聞いている。主にケアや設備に関する意見・提案が出され、職員間で検討し其後の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるよう環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に積極的に参加できるようにして、職員一人一人がスキルアップできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ施設内で職員の情報交換の場を設けサービスの質の向上に努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意思要望を傾聴、把握し安心して過ごして頂けるよう声掛け対応して努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き取りながら安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特徴を説明し、本人・家族とケアマネージャーで話し合い必要としているサービスを見極め検討していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が身の回りすべてを行うのではなく入居者の方にも、掃除や調理など本人の出来るを尊重して、お互い助け合って関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所されたときは、普段の生活状況を伝え共感や理解していただけるようにしています。また施設レクリエーションにも参加していただけるように促し入居者と家族が一緒に過ごす時間を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や友人の面会など、これまでの関係が継続できるよう支援しています。	これまでの人間関係や地域とのつながり等を踏まえて、友人や行きつけの店、美容院や床屋など馴染みの人や場との関係継続支援に努めている。洋裁の先生だった利用者に元生徒の訪問がある等の例もある。遠方であっても外出支援により出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、座席の配置や日々の過ごし方でお互いに楽しく過ごせるように努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も連絡できるよう関係性を大切に、必要に応じて相談や支援を行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の日常会話の中から、職員は入居者の思いや希望を理解し職員会議等で話し合い共有しながら出来るだけ意向にそえるようにしている。	家族からの情報や日頃のコミュニケーションにより思いや意向の把握に努めている。利用者の表情や行動から、或いは入浴時の会話などで日頃聞けない話が聞けることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らし方を把握し、本人にあった過ごし方が出来るように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の経過記録を作成し職員間で情報の共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に担当職員を配置しています。より良い暮らしが出来るように課題を見つけ本人、家族と話し合い意見を取り入れ、ケアカンファレンスにてアイデアを出し合い介護計画を作成しています。	利用者ごとに担当職員を決め日常生活状況を観察し、家族の来訪時に説明し意見や要望を確認の上月1回のケース会議で検討し介護計画を作成している。計画は2年で更新、変化があれば1年または随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状況の変化や気づいた事など、経過記録や連絡ノートを活用し、職員間で情報の共有をしています。それをもとに介護計画の見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望など状況を考慮し、様々なニーズに迅速に対応し柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月のイベント行事(七夕や敬老会)などで、地域で活動しているボランティアに来て頂き、暮らしを楽しんでもらえるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関で受診していただいています。特に無い場合は、協力提携している、てらうち内科小児科医院の往診にて適切な医療をうけています。	本人・家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しているが、ほとんどの利用者が協力医を受診している。月に1回協力医の往診がある。受診状況等の情報を共有し、主治医と連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連絡を取りながら対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	てらうち内科小児科医院を通じて日々の症状など伝え入院した際には、家族との情報交換をしながら早期退院をめざし、退院後のケアに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される場合、本人・家族・主治医と話し合いをする機会をもち、終末期に向けた準備が出来るようにしています。	重度化した場合や終末期のあり方については利用開始時に本人及び家族と話し合い、事業所での対応を説明し、家族の希望等を確認の上方針を共有している。現状では特別養護老人ホームや医療機関等他施設での対応も視野に入れながら協力医と連携し、ターミナルケアへの対応を含め要望に沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期であるが施設内外の救命講習等の研修に参加し職員の誰もが対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合避難訓練は消防署、防災会社等との立ち合いのもと、年2回行っている。この時消火器取扱いについても講習を行っている。	消防署等立会いのもとで避難訓練を年2回実施している。夜間想定も含め避難方法・避難場所等の確認や、消火器・通報システムの操作訓練も行なっている。防災に関するマニュアルや連絡網を整備している。水や食糧等の備蓄もある。	訓練に運営推進会議のメンバーや地域の人に参加を呼びかけ、利用者の見守り等、避難誘導の具体的な内容を確認し合う取り組みに期待したい。

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者一人ひとりの人格を尊重し、言葉・行動に注意を払うように努めています。	利用者に対する話し方や支援態度等については研修会や日頃の話し合いにより全職員が理解し、利用者を尊重しプライバシーを損ねないよう努めている。トイレ誘導等の声かけにも配慮している。広報誌への写真掲載については家族の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思い、考えが言いやすい雰囲気作りに努め、自己決定できるように支援していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望や思いに合わせて一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容室や移動美容室を利用しています。本人の好きな服を着てもらい希望があれば化粧ができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のものを取り入れるようにし、入居者の方と会話しながら一緒に調理、食事、片づけができるようにしている。	食事は利用者の希望とその日の食材により職員が調理している。利用者と職員は会話をしながら一緒に食事をしている。利用者の誕生日や四季の行事に合わせた食事や外食を楽しむこともある。利用者は食材の買出しや食事の準備・片付けを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事量が違うため個々を把握し、摂取状況が分かるように健康チェック表に記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し清潔が保てるように支援しています。必要に応じて長谷川歯科医院の往診を受けています。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表を活用し排泄パターンを予測したり、入居者の排泄を思わせるような表情に注意しながら誘導をしている。また長くトイレに立たない入居者については声掛けの実施をしている。	毎日の排泄パターンを把握し声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援している。夜間はリハビリパンツを使用しているがほとんどの利用者がトイレで排泄ができるため、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者には、水分を多く摂取するよう促し日中の運動の声掛けをしている。食事についても食物繊維が多いものを提供するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回の間隔で入浴できるようにしている。なるべくゆっくりとした時間が提供できるようにしている。	入浴は3日に1回の間隔で、時間帯は午後3時以降としている。入浴時には職員と会話したり音楽や歌などで楽しむほか、季節によりゆず湯やしょうぶ湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく安心できる空間を心掛け、居室以外(リビング・畳)でも休息できるようにしています。また夜も安眠できるようにベットメイクにも気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬については、薬局で渡される処方箋のプリントを活用、確認している。内服時は名前・朝、昼、夕など声をだし読み上げ誤薬しないように工夫している。また飲み込み確認をして、チェックシートにも記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や興味などの支援、日頃の楽しみなど気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺を散歩したりまたドライブにいったり、また食材の買い物や洋服などの買い物などに行けるように支援しています。家族と連絡を取り本人の希望を伝え外出ができるようにしている。	日常的には施設周辺を散歩したり食材の買出しに出かけている。季節によりつつじやバラの名所、道の駅などにも出かけ買い物や外食を楽しんでいる。個人的な外出や普段行けない遠方への外出は家族の協力を得ながら支援している。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭のトラブルがないように家族に了解のもと、金銭を預かり必要に応じて使えるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今までの関係が維持できるように必要に応じて電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間や季節を感じられる空間」に配慮し入居者と共に、四季を感じられる空間づくりを心掛けている。	室内は明るく清潔で日当たりも良く、室温や色彩にも配慮している。壁には利用者の作品や手作りのカレンダー等を飾り、季節感を感じさせている。リビングには畳の間やソファがあり、利用者がそれぞれにくつろぎ、居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が気の合う人同士で過ごせる玄関ベンチや座ったり横になれる畳、ソファがあり思い思い過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたタンスや馴染みな物など持ち込んでもらい本人の過ごしやすい空間になるようにしている。	居室にはエアコン・ベッド・カーテンが備え付けられ、家具類やテレビ等は持ち込みとなっている。室内には利用者それぞれに好みの物や使い慣れた家具等を置き、壁には写真や作品を飾るなど、在宅時と同様に居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設敷地内では、より安心して過ごして頂けるように居室やトイレに札をつけたり環境整備し自立に向けた努力をしています。		